

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員により理解度や実践力に差があるため、新入社員雇用時にも説明を行い、職員全体が理念の共有をできる様、努めている。	施設名である【せらび】は「素晴らしい人生を送ろう」という意味であり、これを基本理念に置き、スタッフ全員が、理念を十分理解し、利用者に『せらび』が第二の人生の家で良かったと、思っていただける支援をしたいと、日々の介護に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。地域住民向けのイベントを開催したり(手芸教室など)、参加したりしている。	地域の方の協力のもとで利用者が暮らし続けるために、地域とのつながりを重要視し、地域と共同で防災訓練をしたり、手芸教室を開催し利用者や地域の方と一緒に楽しむ場を設けたり、AEDの使い方を地域の方に教えたりするなどしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設前のオープニング時より介護相談会を開催、小金原地域住民に向け連絡先を配布、悩み相談や質問等をTELにて行える様に周知している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録を回覧し、職員に周知徹底・向上を図っている。	家族の代表者、民生委員、地域包括センター長、町会長らが出席し2か月に一度は開催しています。意見要望を議事録にまとめ、スタッフ会議の検討資料にし、スタッフの顔写真をホールに掲げたらどうかとの意見を即座に取り入れサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やモニタリングを通して伝えている。	開設したばかりの新しい施設なので市町村に尋ねることも多く、連絡を密にとり、事業所の実態を積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	階段扉はご入居者様がこちらの生活に慣れるまで施錠していたが、現在は開放している。玄関は10月に不審者の侵入が相次いだため施錠を継続。GH1Fは入居後間もない方が離設の危険あるため、現在のところは施錠	拘束をしないケアはスタッフ全員が理解していますし、拘束は理念に反すること、との意識で日々支援に取り組んでいます。施錠している箇所はありますが、外に出たい気持ちを理解しスタッフが寄り添いながら、外出しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リーダー会議やユニット会議にて必ず時間を設けて説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経験により理解度が異なっているため、今後も研修等を行い理解を深める必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者及び介護支援専門員が説明を行い、曖昧な説明とならない様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様、ご利用者様アンケートを行っている。運営推進会議や面会の際に頂いたご意見は、話し合い実践するようにしている。	年に一度利用者アンケートを行い意見要望を聞く仕組みと、利用者が楽しく過ごされている写真をのせた『せらび小金原公園通信』をご家族に送り、ご家族が事業所に来やすく、意見要望が言える環境作りを行い、頂いた意見を支援に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議や会社全体の会議にて反映に活かしている。	職員アンケートの実施、リーダー会議、全体会議を開催し、職員の意見要望を聞く仕組みができています。何でも言える働きやすい職場作りを目指し、職員からの意見を会社全体の運営に反映させ、事業所の向上に生かしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の改善はただちに変わらないこともあるが、職員の意見を参考に働きやすい職場作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基づき、各研修を行っている。また、個別に受けてもらい研修は管理者より本人に伝えることもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各業種の連絡会や勉強会に参加しているが、一部職員にとどまってしまっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴に努めてご本人様との会話を通して信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様との少しでも多い会話を心がけ、相談や要望などに少しでも早く行動するように心がけ、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な傾聴を行った上で相談を行い、ご家族様とご本人様に最適な支援をご案内している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できないこと」よりも「できること」を多く発見するように努め、家事などを共同で行う様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様と同様に「関係」を大切にしながらケアを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	人により、ご家族の了承を得た上で単独外出も行ってもらっている。また、新規施設なので地域主催の「梅見会」などに利用者さんも参加してもらい、地域との関係性を築いている。	これまでの地域社会との関係、馴染みの人との関係を把握し、友達が来訪してくれたり、馴染みの美容院に行く等して、今までの環境をとぎらさせず、継続する暮らしが出来るように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、家事参加やレクなどを通じて入居者さん同士の関係性を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も連絡があればいつでも相談に応じる体制になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症などにより、言葉で表現できない方のことも「その人らしい」暮らしになっているか、ご家族様の意見も踏まえ、チーム全体で考えている。	言葉で表現できなくても、声なき声を聴き、受容と共感で信頼を築き、本人本位の支援を行っています。本人の様子を家族に伝え、意見、要望を聞き、チーム全体で検討し、支援に生かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様に聞いたことなどを記録に細かく記入し、また、ご本人様から得た情報なども職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤後や勤務の間などに業務日誌やケース記録を確認することにより、常に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行ったり、カンファレンスにより意見やアイデアを募り介護計画を作成するようにしている。	居室担当職員からの意見を聞き、家族と話し合い、利用者主体の暮らしを反映した介護計画になっているか、スタッフ全員で検討し、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録には「ご入居者様の様子」「気持ち」などがわかるように指導している。記録以外でも口頭での情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や受診など、ご家族様が対応できない場合などは極力事業所にて代行している。様々なニーズにお答えできるように、ご家族様との連絡は密に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設間もないため、地域に溶け込める様に模索している。また、日々の買い物や散歩などでご利用者様との交流を援助している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望にあわせて代わりに同行したりしている。	利用者全員に提携医療機関の二週間に一度訪問診察を受けて頂き、健康管理を行っています。その他にも、家族の希望があれば、かかりつけ医にも継続診察して頂く仕組みがあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の訪問看護のほか、小規模多機能看護師にも情報や相談事を伝えて連携した支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連絡を密に行っている。ご本人の状況を情報交換し、早期の退院に向けた受け入れ態勢の整備を実践している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	すでに看取りを行っており、その際はご本人様のケア・ご家族様のケアを十分行うために介護スタッフにも面談を行っている。また、Drや訪問看護師、小規模多機能看護師とも連携し、チームで取り組んだ。	重度化した場合における対応指針①急性期における医師や医療機関との連携体制、②ターミナルケアに関する考え方、③ターミナルケア実施にあたっての注意を文章にしてご家族の方に配布し、家族の希望に沿った支援を続けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個人により差はあるが、10月にAED訓練、12月に消防署に依頼し初期対応訓練・消火・避難・通報訓練を行っている。次回は4月に近隣住民も交えて開催する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議等で協力の依頼をしている。また、こちらにあるAEDは近隣住民も使用可能であることを周知している。前述の通り、4月に合同訓練を行うことで関係性を深めていく予定。	最初は職員と利用者のみで夜間想定避難訓練をしました。12月には町会で広報をしてもらい地域の方と共に消火訓練とAEDの使い方について訓練をしました。職員に対しパッケージ型消火設備の説明はしてあります。	事業所として地域との協力が大切なので、災害時の避難場所使用の提案やAEDの貸出し等は、自治会と具体的に話し合い、内容を記録にとるなどして、継続的に行う事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格や状態に合わせた言葉を選び対応するように心がけている。	利用者は人生の先輩であり尊敬すべき人である、介護の基本を忘れることなく支援に取り組んでいます。自己決定しやすい言葉かけ、否定からでなく、出来ることからの始める介護を目指しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言動や行動に注意深く接することで、自己決定＝目的→達成となるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活ではあるが、可能な限り個人を尊重してできる範囲で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心がけ、その方の好みに合わせたおしゃれや嗜好を楽しめるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人個人の「できること」を日々探し、負担とまらない様に心がけながら一緒に行う様に行っている。	食材やレシピは外注し、個々に合った栄養管理をしています。調理、配膳、後片付けは利用者が一緒に行い、誕生日会にはケーキを食べたり、出前をとったりして、食事を楽しむ工夫をしています。	届いた食材を見て、レシピを利用者と考え、献立づくりをし、メニューを書き、食堂に掲示する等、食事の喜びを共有し、食事への関心を高める工夫を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて水分や量、減塩などに対応している。腎透析にも対応。ミキサーや刻みも状況に応じて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促し、できるだけご自分で行ってもらう、磨き残しがないように見守っている。訪問歯科の先生からも評価・指導してもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄間隔や排泄動作をチーム全体で把握することにより、失敗やオムツ等の使用を減らし、自己での排泄を支援している。また、その状況を医療機関とも情報共有している。	排泄パターンを把握して、尿意や便意を感じられるような支援を行っています。排泄の自立は誰もが願うことであるということを、スタッフ全員が共有し、個々人に応じた最適の支援を続けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や飲み物の管理を個々に行い、適切な運動と医療機関との連携を行っている。記録によるチェックからも早めの対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望やケアプランに沿ってチーム全体で取り組んでいる。曜日や時間帯にとらわれず、中には夜間希望の利用者もあり、夜間に対応することもある。	入浴は原則として週3回、午後を中心に、個浴でゆっくり入って頂き、入浴剤を使用し、入浴を楽しんでもらう工夫をしています。また、車いすの方には、機械浴で入浴を楽しんで頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	バイタルの確認も含め、安心して気持ちよく眠ることができる様に、排泄間隔や入眠のタイミングなどを把握し、適切な見守り→声かけを行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師と連携をとり、日々の状態などを適切に情報共有することで薬剤の過剰や、副作用の出現を抑えるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族や、本人との会話の中から嗜好や楽しみごとを探り、ホームでの生活を楽しめるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の悪い日以外は散歩や買い物に必ず出かけている。いちご狩りや花見、近隣主催の茶会などにも参加できるように支援している。	天気の良い日は、日常的に近くを散歩して、外気に触れて楽しむ支援や、季節ごとに、花見に行ったり、いちご狩りに行ったりして五感で季節を感じる支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理の方も多くおり、日常の買い物の際にも自分で支払っていただいている。社会性を失わない様な支援を心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の了承があれば、原則として電話はいつでも可能。手紙もレクで作成して送ったり、身寄りの無い入居者にはスタッフが書いて送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	幼稚にならないように心がけ、照明も開設時からの色を交換するなど配慮している。温度・湿度にも気を配っている。ご利用者様が快適に暮らすことができるように施設としてのリスクマネジメントを行っている。	動線を確保した共有スペース、クリスマス、雛祭りなど季節ごとに飾りをしていますが、幼稚にならないようにと配慮するホーム長の考えから、程よい居心地良い共有空間づくりがされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活なので多少の「合う・合わない」はあるが、机の置き方や座席の位置を工夫し対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にその旨説明し、ご家族様に配置していただいている。	居室には、事業所が用意してあるのはベットのみで、家族に馴染みのものを持ってきてもらい利用者が環境の変化を感じないような、居心地の良い居室作りに取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計時より施設の環境作りに携わり、より快適で安全な生活が営めるように配慮している。また、オープンしてからも必要に応じて環境作りを行っている。		